

# 平成 24 年度飼料用米シンポジウム資料

～耕畜消の連携による利活用の拡大をめざして～

日 時 平成 25 年 2 月 26 日(火) 13 : 00～16 : 45

場 所 九州大学 西新プラザ

福岡市早良区西新 2-16-23

主 催 全国飼料増産協議会  
社団法人日本草地畜産種子協会  
共 催 農林水産省 九州農政局

## 目 次

飼料用米利活用シンポジウムプログラム	i
飼料用米利活用シンポジウム開催要領	ii
<b>【基調講演】</b>	
「飼料用米の拡大・定着の方策－現場にみる耕畜消の連携－」	1
東京農業大学 准教授	信岡 誠治 氏
<b>【事例発表 1】</b>	
「築上町における耕畜連携活動」	15
築上町 産業課 課長補佐	田村 啓二 氏
<b>【事例発表 2】</b>	
「生協としての飼料用米利用畜産物開発」	23
生活協同組合連合会 グリーンコープ連合 常務理事	河嶋 敏秀 氏
<b>【事例発表 3】</b>	
「飼料用米の低コスト生産とまい米牛ブランド化」	35
いずも農業協同組合 常務理事	岡田 達文 氏
<b>【総合討論】</b>	
「耕畜の連携による利活用の拡大を目指して」	49
座長 東京農業大学 准教授	信岡 誠治 氏
<b>【参考資料】</b>	53

## 飼料用米利活用シンポジウムプログラム

- 13：00 あいさつ
- 13：10 基調講演  
「飼料用米の拡大・定着の方策－現場にみる耕畜消の連携－」  
東京農業大学 准教授 信岡 誠治 氏
- 14：00 事例発表  
事例 1 (行政による仲介事例)  
「築上町における耕畜連携活動」  
築上町 産業課 課長補佐 田村 啓二 氏  
(築上町飼料米・こめたまご推進協議会事務局)
- 14：35 事例 2 (消費者団体による仲介事例)  
「生協としての飼料用米利用畜産物開発」  
生活協同組合連合会 グリーンコープ連合 常務理事  
河嶋 敏秀 氏
- 15：10 休憩
- 15：20 事例 3 (生産者団体による仲介事例)  
「飼料用米の低コスト生産とまい米牛ブランド化」  
いずも農業協同組合 常務理事 岡田 達文 氏
- 16：00 総合討論  
「耕畜消の連携による利活用の拡大を目指して」  
座長 東京農業大学 准教授 信岡 誠治 氏  
パネラー 事例発表者、農林水産省担当官
- 16：45 閉会

# 飼料用米利活用シンポジウム開催要領

～耕畜消の連携による利活用の拡大を目指して～

## 1 開催趣旨

飼料用米の栽培は、全国で約3万5千ヘクタールにまで拡大し、輸入飼料に代替できる新たな国産飼料として、また、水田を有効活用することにより遊休農用地の解消や循環型畜産の推進に寄与するものとして、定着しつつあります。

今後、より一層の飼料用米の利活用の拡大を図るためには、このような飼料用米の意義について、関係者の認識の統一に基づき耕種と畜産サイドの連携を深め、また、消費者からもご支援と理解を得ることが重要です。

このため、全国飼料増産協議会と社団法人日本草地畜産種子協会では、各地域での飼料用米の生産・利用・消費に先進的に取り組んでおられる方々の経験や知見をもとに関係者の交流をめざす飼料用米利活用推進のためのシンポジウムを開催してまいりました。

九州・西日本地区は、多くの水田が賦存するとともに、畜産主産地や大消費地である政令指定都市や中核市等も多く所在することから、一層の飼料用米の利活用が期待される地域です。

本年度の飼料用米利活用シンポジウムは、この九州・西日本地域の飼料用米のさらなる取り組みをすすめるべく開催することといたします。

## 2 日 時

平成25年2月26日(火) 13:00～16:45

## 3 場 所

九州大学 西新プラザ 大会議室

福岡市早良区西新 2-16-23 (Tel 092-831-8104)

## 4 開催内容

「飼料用米利活用シンポジウムプログラム」による

## 5 参集範囲

生産者、生産者団体、畜産農家、畜産関係団体、消費者、消費者団体、農林水産省、都道府県、市町村、試験研究機関、マスコミ等の関係者  
(定員 200名)

## 6 主催等

主催 全国飼料増産協議会、社団法人日本草地畜産種子協会

共催 農林水産省九州農政局



【総合討論】

「耕畜消の連携による利活用の拡大をめざして」

座長

東京農業大学 准教授

信岡 誠治 氏

パネラー

築上町 産業課 課長補佐

田村 啓二 氏

生活協同組合連合会 グリーンコープ連合 常務理事

河嶋 敏秀 氏

いずも農業協同組合 常務理事

岡田 達文 氏

農林水産省生産局畜産振興課 草地整備推進室長

小倉 弘明 氏